

## 高等学校における特別支援教育の理解推進研修講座第1日目を 実施しました。



▲研究協議では、困難を抱えている生徒の事例について、まず最初に個人ワークでその背景と具体的な手立てについて考え、付箋紙に書き出しました



▲次に、個人ワークで考えた課題の背景や手立てを出し合い、活発な意見交換がなされました。



▲写真2 綾屋さんからの講話では、センター所員も多数聴講しました。

6月28日に教育研修センターで『高等学校における特別支援教育の理解推進研修講座』を実施しました。

この講座は、高等学校における特別な教育的支援を必要とする生徒への対応を考えていくために今年度からスタートした講座で、県立の高校の学級担任を対象に行う研修です。

第1日目の今回は、午前には、発達障害等の理解と支援についての講義や研究協議、午後は2つの高等学校の教諭から学級経営や授業に関する実践発表があり、最後は、東京大学先端科学技術研究センター研究員で発達障害当事者でもある綾屋<sup>あやや</sup>沙月先生をお迎えして、「学生時代の当事者としての思い」と題した講話をいただきました。

午前の講義においては、発達障害についての基本を学び、その後、研究協議で、不適応行動、自己理解、学習支援をそれぞれテーマとした分科会に分かれ、具体的な事例について教員同士で活発な意見交換がなされました。

綾屋先生の講話では、発達障害当事者として、どのような感覚があって、どのような困難さを感じていたのかを詳しくお話いただき、また、当事者としてどう向き合ってきたか、社会がどうサポートしていけばよいかという課題を提示してくれたと思います。

多くの受講者から、今回の研修は今後の自身の実践をしていく上で大いに参考になったという意見がありました。次回第2日目は8月20日に実施します。